



ひなどり

園だより 6月号
令和3年6月1日
新潟市立新津第三幼稚園

「大きな瞳に見つめられて」

園長 川合 千尋

小学校と幼稚園を行き来していると子どもたちの様子で気付くことがあります。それは、幼稚園の子どもたちの瞳の大きさです。きっと印象なので、実際にはそんなことはないと思いますが、私の受けた感じでは、幼稚園の子どもたちは大きな瞳でこちらの顔をのぞき込んでくるイメージが強くあります。(見つめられるのが、少し照れくさくなるくらいに)

なぜかなあと考えてみました。そこで思いついたことは、きっとまだ十分に言葉を獲得していない子どもたちは、耳から入ってくる情報よりも目から入ってくる情報がとても大切なのかなということです。よく見て、じっと見て、目の前にいる人や物を子どもたちなりにじっくりと分析しているのだと思いました。そういえば、手を触れてくる子どもたちもたくさんいます。手の触覚で様々な情報を得ることができます。そうそう、もっと小さいとなめる子もいますね。きっと、五感を最大限に使って、様々な情報を得ようとしているのだと思いました。

つまり、この時期の園の子どもたちは、人生の中で最も五感をフル回転に使って様々なものを見聞き体験しているのだということに改めて気付かされました。(これまでも幼児教育に携わっている方には当たり前のことだと思いますが・・・) それなら、この時期にいろいろなものを見せてあげたい、感じさせてあげたい、体験させてあげたいという思いがよりいっそう強くなりました。

新緑の美しい季節になりました。きれいな花も咲いています。鳥の鳴き声も聞こえます。昆虫もたくさん出てきました(ちょっとこわいかな)。私は、五感をフル回転させるには自然にふれあうことが一番だと思っています。秋葉区には身近に自然がたくさんあります。是非、ご家庭でもお子さんと一緒に、自然の中でたくさん体験を試みませんか？子どもたちの瞳がよりいっそう大きく輝くこと間違いありません。

